

腎筋膜について

研究の概要

腎筋膜は 1895 年に Gerota が報告して以来 Gerota の筋膜として広く知られている。近年本邦では腹腔鏡下手術に際して外側円錐筋膜がメルクマールとして知られるようになっており、後腹膜鏡下アプローチではまず外側円錐筋膜を切開することになっているが、Congdon が 1941 年に命名した Lateroconal fascia は前腎筋膜と後腎筋膜が合わさった部分の筋膜のことであり、実際後腹膜鏡下手術の際にはじめに切除するのは後腎筋膜そのものと思われる。腎周囲筋膜の状況は混沌としている。過去の文献を検索し、また当院で施行した CT 画像から腎筋膜の概念を整理します。

研究の方法

当院で施行した腹部 CT、MRI 画像等にて腎周囲の筋膜の形状を観察し既に報告されている論文の内容と照合し腎周囲筋膜をどのように理解するべきか検討します。

研究に用いる試料、情報の種類

当院で施行した腹部 CT、腹部 MRI などの画像。

オプトアウト

過去に当院で腹部 CT あるいは MRI を撮影された方で、上記目的で腎筋膜に関する研究に参加拒否を希望される方は申し出てください。

個人情報の取り扱い

収集したデータは誰のデータかわからない形で使用します。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、個人情報を厳重に保護し、研究の結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。なお、学会や論文で発表する前までに不参加を表明いただいた場合のみ対象者から除外致します。今回の研究に関しては 2024 年末日までに参加拒否の申し出があった場合に対象者から除外させていただきます。

研究責任者

泌尿器科 徳地 弘